

ダビデとフシヤイ

(ヨサムエル15・30〜37)

一、罪は人を不幸にする

罪、すなわち創造主なる神の御意思に適わない思いや行いは、私たちを不幸にします。ダビデ家において、息子たちに問題行動が現れました。罪という、聖なる神の御思いを無視するがゆえにあらわれた不幸です。ダビデの息子アムノンは異母きょうだいのタマルに情欲を抱き、それを成し遂げてしまいました。しかもその後、アムノンがタマルを突き放すという、言語道断な行為をしました。当然のこと、実の兄アブシヤロムはその事実を知って恨みを抱き、アムノンを殺害してしまいます。アブシヤロムは父ダビデの下から逃れました。

その後のことです。アブシヤロムは策略をめぐらし、ついに父ダビデの前に姿を現しました。彼はダビデ王より、エルサレムで自由に活動する許可を得、自分が動かすことのできる戦車と馬と部下を手に入れました。アブシヤロムには父親譲りの才能と言いましょいか、今日の言葉で言うカリスマ性がありました。彼は、王に訴えるためにエルサレムにのぼって来た人々の不平不満を聞いては、彼らの心を自分に向けました。15章6節です。〈アブシヤロムは、さば

きのために王のところに来るすべてのイスラエル人にこのようにした。こうしてアブシヤロムはイスラエル人の心を盗んだ。〉おそろしい才能です。その後、アブシヤロムは「時が来た」と見計らい、父でもあるダビデ王に語りました。15章7節、8節です。〈それから四年たつて、アブシヤロムは王に言った。「私が主に立てた誓願を果たすために、どうか私をヘブロンへ行かせてください。このしもべは、アラムのゲシュルにいたときに、『もし主が、私をほんとうにエルサレムに連れ帰ってくださいなら、私は主に仕えます』と言って誓願を立てたのです。〉と。ダビデ王の許可を得ると、アブシヤロムは全部族に使者を遣わし「アブシヤロムが王になった」と知らせました。

さらに、知恵者であったアヒトフェルがアブシヤロムの企てた謀反に加担しました。こうして、イスラエルの人々の心がアブシヤロムになびき、アブシヤロムが願ったとおりに行って行きました。一方のダビデは、これらの出来事は自分が犯した罪が原因であると受け止めています。「主もまた、あなたの罪を見過ごしてくださった」と、預言者ナタンより知らされたダビデでありましたが、赦しを知るとは、それで終わりではなく、償いをする事です。そういう意味で、ダビデは時代を超えて私たちの模範になっています。

二、ダビデを導いた神の霊

その後のことです。30節です。〈ダビデはオリブ山の坂を登った。彼は泣きながら登り、その頭をおおい、はだしで登った。彼といっしょにいた民もみな頭をおおい、泣きながら登った。〉とあります。ダビデは泣きながらエルサレムを出て行きました。ダビデには力でもできたはずですが。しかしそんなことをしたら、身内で血を流すことになり、神を王とするイスラエルが立ち行かず、周辺の王国と同じになってしまいます。こうしてダビデは、自分が引き下がる決断をしました。

ここに、ダビデが泣いたと書かれています。それはどんな涙だったのでしょうか。それは、息子のアブシヤロムが神の御意思に逆らっていると知るがゆえに流した涙です。

続いて、31節をご覧ください。〈15・31〉と書かれています。アヒトフェルは知恵者でしたが、神の霊に動かされていないことがはつきりします。神は、別の知恵者フシヤイを備えられました。32節です。〈15・32〉とあります。フシヤイはダビデ王を慕っていました。

こうして、アブシヤロムが行ったことは御心を損なうことであり、アブシヤロムに加担したアヒトフェルも彼の知恵が地に落ちたものであることがは

つきりしました。フシヤイはダビデ王にお従いし、ダビデ王を助けたいと願っていました。ダビデ王はフシヤイをアブシヤロムの下に遣わす決断をします。〈15・33〜34〉 こうして、知恵者フシヤイがアブシヤロムの下に遣わされ、アヒトフェルがアブシヤロムに提案したものを退けることになります。

三、神の霊に導かれるなら

罪から出て来る人の知恵、すなわち悪知恵に立ち向かうことは、私たちにできません。そこには、新約聖書の言葉で言う悪魔の力があります。しかし、神の知恵によって立ち向かうなら、人の知恵、罪から出てきた悪知恵に立ち向かうことができます。

では、神の知恵とは何なのでしょいか。それは、イエス・キリストであり、キリストの福音です。赦すこと、愛すること、受け入れることです。これらを目指して歩んで行くなら、人間的な知恵、人の悪賢さに押し流されることはありません。

私たちはアヒトフェルを動かした霊に押し流されないようにしようではありませんか。ダビデを動かした霊、フシヤイを動かした霊に導かれる者とされようではありませんか。二人を動かした霊は神からの霊です。神の霊は、イエス・キリストを信じ、信頼する者を導く霊でもあります。